

セグメント別営業概況

船舶・海洋部門



交通・輸送



防衛・宇宙

主力製品：LNG船、LPG船、大型客船、カーフェリー、自動車運搬船、資源探査船、艦艇など

基本戦略

- 技術力・ブランド力を活用してビジネスモデルを転換、勝ち残り新たな発展へ向けた基盤構築・体質改善を図る
- 高技術・高付加価値船への注力による差別化により国内造船事業を強化
- エンジニアリング事業及び海外造船事業の事業化

今後の見通しと目標



2012年度の概況と2013年度の見通し

欧州財政危機などの影響で世界の新造船市場が縮小傾向にあるなか、天然ガスの利用拡大などを背景に需要が高まるLNG（液化天然ガス）船をはじめ、高技術・高付加価値船の受注に注力した結果、LNG船5隻、資源探査船2隻など合計29隻を受注しましたが、連結受注高は、前年度を下回る2,554億円、2012年度末の新造船契約残は45隻となりました。

連結売上高は、フェリー5隻、自動車運搬船4隻、LPG船3隻、巡視船2隻、RO-RO船2隻など合計24隻を引き渡した結果、2,258億円となり、円安の影響などにより営業利益は前年度を上回る115億円となりました。

2013年度の見通しとしては、引き続き、高付加価値船を中心に受注に取り組むことで、連結受注高は3,300億円と大きく伸長する見込みですが、連結売上高は1,900億円、営業利益は40億円と2012年度を下回る計画です。

中長期の成長に向けた取り組み

当社は、「2012事業計画」の達成に向け、高技術・高付加価値で国内造船事業を展開するとともに、エンジニアリング事業の強化や海外造船事業を推進します。

国内造船事業では、客船プロジェクト室主導による品質・コスト・工程の全体最適追求、3次元設計100%適用、工作工法の革新などにより、2013年6月に1番船を起工したカーニバル社の欧州法人であるコスタ・グループ傘下のアイーダ・クルーズ向け大型クルーズ客船2隻を玉成し、客船事業をコア事業化します。

また、LNG船や資源探査船等の高技術・高付加価値船で他社との差別化を図ります。2013年5月、1番船を引き渡した資源探査船に加え、LNG船では、次世代MOSS型LNG船「さやえんどう」や高効率主機UST (Ultra Steam Turbine)の採用により約25%の燃費効率向上を図り、厳しい競争を勝ち抜きます。今治造船とLNG船の設計・販売の合併会社を設立し、世界

▼ 次世代型LNG運搬船「さやえんどう」



▼ 3次元海底資源探査船「RAMFORM TITAN」



▲ 三菱空気潤滑システム (MALS: Mitsubishi Air Lubrication System)

船舶・海洋事業本部長
原 壽



SWOT分析表

- 高技術・高付加価値船に注力
- 他社にはない環境・省エネ独自技術



- 韓国・中国メーカーと比べたコスト競争力

- 原油価格高騰やエネルギー効率設計指標 (EEDI) 導入による省エネ船の需要拡大
- LNG船の需要増大

- 世界的な需給ギャップによる船価低迷
- 鋼材価格の高騰
- 韓国・中国メーカーの建造能力増強

主要プロジェクト

発表時期	納入時期	プロジェクト
2012年10月	2015年	日本郵船向け次世代型自動車運搬船2隻受注
2012年 6月	2014年	商船三井向け次世代型LNG船「さやえんどう」1隻受注
2011年11月	2015年～2016年	客船最大手のカーニバルグループ向け大型クルーズ客船2隻受注
2011年 4月	2013年以降	ノルウェーPGS社向け3次元海底資源探査船2隻受注

的なLNG需要の高まりを背景に増加傾向にある、新造LNG船の大型商談に対応できる体制を国内で先んじて整えました。

さらに、エンジニアリング事業では、当社の高性能製品開発技術と経験豊富な設計技術陣を活かし、優秀船型と省エネ技術によるエンジニアリング事業を伸張します。

海外造船事業においても、現地有力企業との連携交流強化で市場参入機会の拡大を図り、将来のジョイントベンチャーも視野に入れて取り組みます。

これらの基本戦略を推進することで、2014年度は連結受注高2,700億円、連結売上高2,500億円を目指します。また、営業利益においても、生産体制の再構築、資材費低減活動の推進による収益改善効果に加え、エンジニアリング事業の拡大によって80億円を目指します。



▲ 護衛艦「てるづき」

T O P I C S

次世代クルーズ客船1番船を起工

2013年6月、長崎造船所において、世界最大のクルーズ客船会社であるカーニバル社の欧州法人、コスタ・グループ傘下のアイダ・クルーズ向け大型クルーズ客船2隻の1番船の建造に着手しました。世界最先端の環境技術を織り込んで建造する次世代クルーズ客船で、2015年3月、2016年3月にそれぞれ引き渡し予定です。

今回の客船は12万4,500総トン、約3,300人乗りで当社が建造する最大のクルーズ客船となります。

当社独自の革新的技術である「三菱空気潤滑システム (MALS: Mitsubishi Air Lubrication System)」をはじめ、先進の環境技術が織り込まれています。

